

昭和十九年度

(機)  
本土周辺  
71

沖縄県防空計画

防衛研究所図書館

昭和十九年度

沖繩縣防空計畫

RS 77946

Cincpac-Cincpoa

B-152/8

Okhawa 2 May 45

極秘

防衛研

保管  
文書  
防衛研  
甲

本土周辺  
71

4505-2

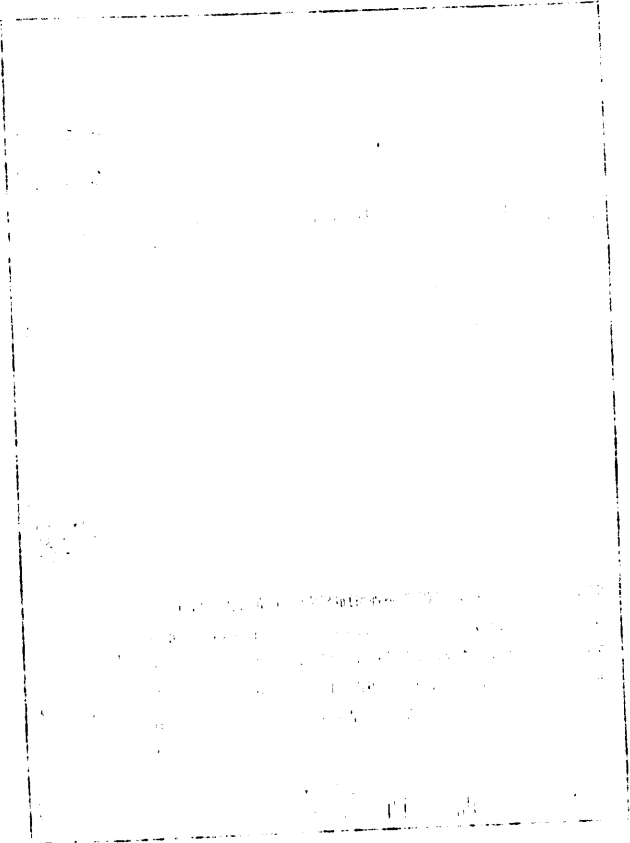
41  
27 11 25

29006

96-00

A 23

29066.



第十五章

避 難 (緊急避難及烽火避難)

第十六章

退 去

第十七章

非常用衣食住物資供給

第十八章

應急復旧

第十九章

作 業

第二十章

掃 除

第二十一章

防 空

第二十二章

防 空

第二十三章

防 空

第二十四章

統 制

第二十五章

應 急 運 輸

第二十六章

交 通 施 設 防 空

第二十七章

供 給 施 設 防 空

昭和十九年度 沖繩縣防空計畫 (案)

目次

第一章	總則
第二章	防空要員
第三章	教育及訓練
第四章	防空監視
第五章	防護監視
第六章	防空通信
第七章	防空警報
第八章	燈火管制
第九章	偽裝
第十章	消防
第十一章	防毒
第十二章	防疫及給水

注意

- 一、本計畫書ハ極秘取扱トシ其ノ保管ニ注意スルコト
- 二、取扱主任者異動ノ際ハ確實ニ之ガ引継ヲナスコト
- 三、本計畫書ハ之ヲ復寫セザルコト
- 四、座廳ノ際又ハ拵ニ返戻方通知ヲ受ケタルトキハ直ニ縣警防課ヘ返戻ノコト 個人保管ノモノニアリテハ關係公職ヲ退キタルトキ亦同ジ

第一章 總則

第一條 本計畫ハ沖繩縣永年防空計畫（以下永年防空計畫ト稱ス）

ニ定ムルモノイ外昭和十九年度（以下本年度ト稱ス）ニ於ケル防空ノ

実施及之ニ關シ必要ナル設備資材ノ整備其ノ他防空上重要ナル事項ニ

關シ縣下一円ニ亘リ計畫スベキモノヲ規定スルト共ニ警察署長申町村

長及其ノ他ノ者ノ設定スル防空計畫ニ準據ヲ與フルモノトス

第二條 警察署長及申町村長ハ本計畫ヲ基礎トシ速ニ年度防空計畫ヲ

設定スルモノトス

第三條 防空ノ整備強化ハ大規模且及覆ぬ決戰的裝束ニ對處シ得ル

強靱且縱深アル國土防衛態勢ノ確立ヲ期スルヲノ防空要員ノ充實確保

及設備資材ノ整備ヲ急速ニ強化スルモノトス

第四條 防空ノ組織及活動ハ整齊敏活挺身敢闘如何ナル事態ニ付シテモ抗撻力アル如ク指導スルモノトス

第五條 防空ノ急速ナル整備ニ當リテハ防空必勝ノ信念ヲ一層堅持昂揚セシムルニ留意シ徒ラニ人心ヲ刺戟シ却テ士氣ヲ萎靡セシムル如キコトナカラシムルモノトス

第六條 防空業務ノ範圍及ビ防空警報ニ應ズル防空業務ハ地域施設事業場ノ重要度危險度等ヲ勘案シ必要ナル程度ニ限定シ一律的実施ニ伴フ諸能率ノ低下ヲ防止スルモノトス

第七條 防空法第二條ノ規定ニ依リ防空計画ヲ設定スベキ市町村(指定市町村)ハ左ノ如シ  
那覇市 首里市 真和志村 小祿村 大里村  
佐敷村

第八條 本年度ニ於ケル防空重要地域ノ順位ハ左ノ通トス

甲 那覇市 首里市 真和志村 小祿村 大里村 佐敷村

乙 糸満町 北谷村 讀谷山村 浦添村 西原村 美里村 名護町

本部町 伊江村 平良町 石垣町

丙 其ノ他ノ村

第九條 防空ノ設備資材ノ整備ニ當リテハ勤勞奉仕其ノ他勞務動員代用資材ノ活用不急資材及ビ施設ノ轉用等凡ニル創意工夫ヲ凝ラシ目的達成ニ努ムルモノトス

### 第二章 防空要員

第十條 防空重要地域ノ市町村ニ於ケル警防團員ノ定員ハ附表第一號ノ如シ

學校報團隊防空補助員數ハ附表第二號ノ如シ

第十二條 入學應召校等ニ因ル防空要員ノ缺ヲ速ニ補充シ置クモノ

トス

第十三條 防空要員ノ整備ニ関シテハ警防團消防警備要員及特設防護團

ノ消防要員ノ充實ヲ第一トシ救護配給應急復旧等各機團要員ノ確保ヲ

期シ特ニ防空重要地域ニ在リテハ反覆空襲ニ備ヘテ之ガ補充要員ヲ急

速ニ増強確保シ置クモノトス

第十四條 防空要員中幹部ハ責任觀念旺盛ニシテ指揮能力卓越シ且担当

長期ニ亘リ從事シ得ル者ヲ選定スルモノトス

施設又ハ事業場ノ防空要員中幹部ハ成ルベク平時業務幹部ヲ以テ之ニ

充ツルモノトス

第十五條 防空監視隊要員ハ特ニ身体強健視力健全ニシテ長期ニ亘リ服

務シ得ル者ヲ選定シ之ニ充ツルモノトス

第十六條 救護所等ノ救護要員トシテ醫師齒科醫師藥劑師產婆看護婦保

健婦等ノ特殊技能者及其ノ補助員ヲ確保シ置クモノトス

第十七條 救護要員ハ救護所救護病院助産救護所等ノ救護専門機團ノ外

災害現場ニ於ケル傷病者ノ應急救護ノ爲メ警防團特設防護團ニ在リテ

モ之ヲ確保シ置クモノトス

第十八條 公共土木施設ノ應急復旧ヲ実施スル爲メ應急土木工作團ヲ設置

スルモノトス

重要施設ノ管理者ハ其ノ施設ノ應急復旧ニ從事セシムル爲メ應急復旧

工作團ヲ設置スルモノトス

重要施設ノ管理者ハ其ノ施設ノ應急復旧ニ從事セシムル爲メ應急復旧

工作團ヲ設置スルモノトス

第十九條 應急土木工作團應急復旧(工作)隊 要員トシテ土木建築電  
氣等ノ特殊技能者及其ノ補助員ヲ確保シ置クモノトス

第二十條 前各條ニ定ムルモノノ外防毒清掃防護給水ニ必要ナル要員(特ニ基幹要員)ヲ確保シ置クト共ニ事態ニ應ジ必要ナル業務ニ充當シ得ル如ク計慮準備シ置クモノトス

第二一條 防空機關ノ要員ハ迅速ニ所定ノ勤務ニ服シ得ル様其ノ住所等ニ留意シ選定スルモノトス

第二二條 防空機關ノ要員ハ迅速ニ所定ノ勤務ニ服シ得ル様其ノ住所等ニ留意シ選定スルモノトス  
己ムヲ得ザルモノニ付イテハ非常線ノ通過交通機關ノ確保等非常召集ニ必要ナル措置ヲ豫メ議シ置クモノトス

第二三條 各種防空機關ハ突發事態ニ即應シ得ル如ク最少限度ノ要員ヲ常備シ或ハ確実ニ豫定シ置クモノトス

第二四條 特設防護團員ノ數ハ其ノ施設ノ種類及重要度建物ノ構造配置規模等ヲ考慮シ警防上必要ナル限度ニ止ムルコトトシ其ノ他ノ者ハ家庭隣組ノ防空要員トシテ確保シ其ノ所在ノ防空力強化ニ資セシムルモノトス

第二五條 各種防空機關ハ所屬要員ノ勤怠各種休養等ニ關スル計畫ヲ一層充實整備スルモノトス

### 第三章 教育及訓練

第二六條 教育訓練ノ根本ハ防空要員ノ實戰能力ノ向上並ニ果敢旺盛ナル烈々タル皇上前衛精神ノ涵養ニ努メ如何ナル事態ニ對シテモ斷乎挺身敢闘スル不屈不撓ノ防空抗撻力ヲ鍊成スルニ在リ

第二七條 教育訓練ハ重要地域ニ對スル及復旧空襲ニ對シ軍需生産ノ維持運輸通信等ノ機能(持並ニ緊急防空業務ヲ司)セシムルヲ主眼トシ



テ各種防空機關要員ハニ家庭保護班ニ於ケル所ニ要員ヲ鍊成スルモトス

第二七條 教育ハ縣防空學校市町村防空講習所其他ノ施設ヲシテ之ヲ行ハシムルモトス

醫療救護要員ニ對スル教育ハ醫務師會齒科醫師會藥劑師會ニ於テ之ヲ行フモトス

第二八條 縣防空學校ニ於テハ主トシテ市町村防空講習所職員又ハ各種防空機關指導者ヲ鍊成スルモトス

市町村防空講習所ニ於テハ主トシテ地方防空指導者又ハ一般防空要員ヲ鍊成スルモトス

第二九條 教育訓練ヲ施行スヘキ地域及重要順位ハ左ニ依ルモトス

但シ防空監視及之ニ伴フ通信ニ關スル訓練ハ縣下各監視所所在地ニ於テ之ヲ施行スルモトス

甲 那霸市 首里中 真和志村 小祿村 大里村 佐敷村

乙 糸満町 北谷村 讀谷山村 浦添村 西原村 美里村 名護町 本部町 伊江村 平良町 石垣町

丙 其他ノ村

第三十條 教育訓練ヲ施行スベキ防空業務ハ概テ左ノ通リトス

- 一 防空監視
- 二 防空消防

ハ大規模且反復的修繕ニ對スル隣組ヲ中心トシ各種防空機關ノ行フ初期防火消防等

又警防團其、他主、防空機関ノ機動力ノ鍊、特ニ出動配置稱模其  
他実戦ノ推移ニ應ズル防火消防活動並ニ又覆空襲被害累加時ニ於  
ケル大火火鎮圧活動

3 大型及各種煙夷強並ニ爆彈燒夷彈混用投下ニ対スル防火消防活動  
4 港湾船舶ノ消防活動

三 待避

ノ道路通行者ノ待避多數集令場所ニ於ケル人員待避及消防軍其、他  
ノ車輛分散待避

2 爆彈落下時ニ於ケル待避ヨリ防火消防活動へノ移行動作

四 救護

ノ隣保班警防團本校報國隊等ノ行フ負傷者ノ迅速適確ナル救出搬送

並ニ應急措置

2 醫療機周移動救療機周及搬送收容機周ノ綜合運用

3 醫藥器具、他ノ物資ノ非常持出及補給

五 配給

ノ空襲被害者及集團防空従事者ニ対スル應急食糧、一元の簡易迅速  
ナル配給並ニ炊出

2 衣料其、他生活必需品特ニ傷病者用衣食品ノ迅速ナル配給

六 避難

避難者ノ誘導輸送收容等ニ関スル關係機周ノ活動

七 應急復旧

建築物道路橋梁河川水道等ノ應急復旧特ニ各種工作隊ノ非常勤員  
ノ運搬及復旧工作

//

八 清掃防疫及給水

ノ被害地清掃特ニ交通道路ノ啓閉確保及屍体汚物ノ處理

ニ防空防毒

ヲ飲料水ノ給水淨化及配水

九 防毒

防毒面ノ使用方法簡易ナルヲ斯防毒教育及凡斯檢知教育

下燈火管制

燈火管制ニ付イテハ必要ト認ムル地域ニ於テ教育ノミ施行シ訓練ハ

原則トシテ行ハズ 祖シ他ノ業務ノ訓練ノ目的ヲ達成スル爲メ必要

ナル限度ニ於テ行フヲ妨ゲズ

十 情報指揮連絡

反復大空襲混亂時ニ於ケル防空機關ノ情報指揮連絡動作及有線電話

杜絶時ニ於ケル措置

十一 重要施設及鉄道港湾

ノ工場事業場運輸通信各種供給施設等ノ反復空襲被害累加時ニ於ケル指揮ノ訓練特ニ應急復旧轉換等各種復旧機關ノ運用訓練

乙重要地域及交通ノ要衝ニ於ケル重要運輸交通確保訓練時ニ鉄道及

港湾ニ於ケル綜合訓練

第三一條 訓練ハ施行地域ノ重要度ニ應ジ防空業務ノ範圍並ニ其ノ程度

ヲ限定シ以テ防空教育訓練ニ基ク戰争速行上ニ及ボス諸能率ノ低下ヲ

防止シ且防空教育訓練ノ重点的施行ヲ特ニ考慮スルモノトス

第三三條 訓練上重点ヲ置クベキ防空業務左ノ如シ

甲 地域

防火消防救護待避應急復旧(警備)

乙地域

防火消防救護待避應急復旧(警備)

丙地域

防火消防(警備)

第三三條 訓練ハ之ヲ基礎訓練ト綜合訓練トニ分ツ

第三四條 基礎訓練ニ於テハ各種防空機關及各種防空業務ニ付夫々基礎のニ線密ナル演練ヲ行ヒ熟達スル迄反復施行スルモノトス

第三五條 綜合訓練ニ於テハ基礎訓練ニ依ツテ習得シタル職能ヲ活用シ各關係防空機關ノ行フ防空業務ヲ有機的ニ綜合シ実践ノ推移ニ即スル如ク演練スルモノトス

第三六條 防空主動機關タル警察官吏警防團員學校報國隊員應急土木工

作團員各種國防團員應急工作隊員救護所員特設防護團員等ハ特ニ其ノ職能並ニ指揮能力ノ昂揚ニ付精到ヲ期スルモノトス

第三七條 家庭及隣保班ノ防空訓練ハ其ノ能力ノ限度ニ於テ一定ノ水準ニ達スルヲ目的シ教育並ニ訓練ヲ行フモノトス

隣保班ノ防空訓練ニ當リテハ時ニ指揮者ノ指揮能力ノ鍊成ニ努ムルモノトス

第四章 防空監視

第三八條 防空監視隊本部ニハ常時隊長一名副隊長一名及本部員若干名

(概テ一通信機ニ二名ノ割合トス)

防空監視哨ニハ常時哨長一名副哨長一名哨員六名勤務スルヲ例トス

第三九條 防空監視隊ノ編成ハ本部ハ五交ヲ標準トシ監視哨ハ指定セ

ラレタルモノニ在リテハ三交代其ノ他ノモノニ在リテハ五交代トス  
尚適當ナル豫備員ニ付考慮シ置クモノトス

第四十條 防空監視隊員ハ旺盛ナル責任觀念ト細心ノ注意ヲ以テ常ニ航空機艦船等ヲ監視シ之ニ関スル情報ヲ一層迅速適確ニ報告スルモノトス

第四十一條 永年防空計画第三十三條ノ防空監視隊ノ名稱其ノ他ハ附表第三號ノ如シ

第四十二條 防空監視隊服務ニ関スル關係陸海軍司令官ノ指定事項ハ附表第四號ノ如シ

第四十三條 警察署長ハ管内ノ無線施設ナキ船舶漁船ニ対シ附表第五號ニ依リ調査シ防空監視及敵艦船監視ニ関シ其ノ連絡スベキ方途ヲ指示ス

ルモノトス

### 第五章 防護監視

第四十四條 防護監視ハ空襲警報発令ヨリ全解除ニ至ル迄ノ間之ヲ実施スルモノトス

第四十五條 警防團ノ防護監視ハ通常長以下七名ヲ以テ服務スルモノトシ監視二名連絡係二名控員二名トシ概ネ一時間毎ニ交代セシムルモノトス

第四十六條 特設防護團及隣保班ノ防護監視ハ通常一名ヲ以テ監視シ概ネ一時間交代スルモノトシ必要ニ應ジ連絡員ヲ配置スルモノトス

第四十七條 警防團ノ防護監視ハ特ニ火災發生ノ狀況ニ注意スルモノトス

第四十八條 警防團及特設防護團ニ於ケル防護監視員ハ敵機視界又ハ聴音界ニ入ルモ待避セザルヲ原則トスルモノトシ全ナル措置ヲ精スルモノトス

ノトス

第四九條 隊保班ノ防護監視員ハ敵機視界又ハ聽音界ニ入り又ハ軍防空  
機園ノ戦闘開始ヲ知リタルトキ速ニ其ノ狀況ヲ班内ニ報知シ然ル後豫  
定ノ待避所ニ待避シ爾後ノ狀況ニ注意シ危險去リタルトキハ更ニ監視  
ヲ繼續スルモノトス

### 第六章 防空通信

第五十條 防空通信情報通信系統及通信網ハ附圖第一ノ如シ

其ノ第二次連絡ハ附圖第二ノ如シ  
其ノ第三次連絡ハ附圖第三ノ如シ

第五十一條 防空指揮連絡報通信系統及通信網ハ附圖第四ノ如シ

其ノ第二次連絡ハ附圖第五ノ如シ

縣廳及市町村間ノ指揮連絡報通信系統ハ附圖第六ノ如シ

第五二條 永年防空計畫第四九條ノ規定ニ依リ使用スベキ自動傳令

及其ノ分担方面連絡方法附表第六ノ如シ

第五三條 警察署長及市町村長ハ本章ノ規定ニ基キ更ニ細部通信系統ヲ

具體的ニ計畫シ置クモノトス

第五四條 防空通信施設ノ保全 每留意シ之ガ修理及復旧ニ必要ナル資材

等ヲ準備シ置クモノトス

尚重要区線ニ空襲被害其ノ他ノ障害アリタル場合ニ於テハ最優先的ニ

之ガ復旧ニ當ルモノトス

### 第七章 防空警報

第五五條 防空警報ノ傳達信號ハ附表第七號ノ如シ

第五六條 サイレンニ依ル防空警報ノ傳達ヲ正系統トナス地域ニ在リテ

ハ之ガ機能保持ニ関シ一層留意スルト共ニ空襲災害等ニ依ル機能喪失ノ場合ヲ考慮シ常ニ警鐘標識ノ掲揚口頭傳達ニ依ル補助手段ヲ確實ニ整備シ置クモノトス

第五七條 知事ハ警戒警報ノ傳達ニ當リ警察署長ニ防空警備ノ必要度(

第一種警戒警報第一種警戒警報)ニ関スル通知ヲ為スモノトス

但シ警戒警報ノ程度ノ種別ハ一般ニ之ヲ傳達セザルモノトス

前項ノ通知ニ基ク要員配備ノ程度ハ概テ附表第八號ニ依ルモノトス

第五八條 永年防空計画第五十七條ノ防空警報受令官及警報担任地正名

ハ附表第九號ノ如シ

第五九條 防空警報傳達通信系統ノ細部及其ノ通信網ハ附表第七ノ如シ

其第二次連絡ハ附表第八ノ如シ

其ノ第三次連絡ハ附表第九ノ如シ

第六十條 警察署及市町村ヘノ防空警報傳達系統ハ附表第十ノ如シ

第六十一條 警察署長及市町村長ハ各其ノ担任スル防空警報ノ傳達ニ付区域ヲ分テ附表第十二依リ傳達責任者傳達方法等ヲ具體的ニ計画シ置クモノトス

第六十二條 指定警報受領者ハ附表第十號ノ如シ

第六十三條 海上ニ対スル警報傳達ノ為ノ設置セル視覚信號及

掲燈信號ノ位置傳達区域傳達責任者タル市町村長ハ附表

第十二號ノ如シ前項ノ市町村長ハ当該視覚信號及掲燈信號

ニ対スル防空警報傳達方法傳達担当者掲揚担当者等ヲ具體的ニ計画シ置クモノトス

第六十四條 防空警報下令中管内海上区ニ出入スル船舶漁舟航

空機ニ對シテハ各汽船會社漁業組合水産會航空會社(以上

各支店代理店取扱店ヲ含ム)ハ所屬船舶漁舟航空機ニ對シ

22. 其ノ出航地寄航地若ハ航行中ニ於テ所要ノ警報ヲ傳達スルモノトス

第八章 燈火管制

第五條 燈火管制規則第一節乃至第七節表中警戒管制甲程度ヲ適用スベキ区域ハ沖繩縣全地域トス海面ニ於ケル前項ノ警戒管制ノ甲程度ヲ適用スベキ区域ハ左ノ如ク附圖第十一参照)

一 中頭郡尖勝半島ノ尖端ヨリ南東二十哩斜線内ノ半月周海面

二 中頭郡讀谷山村茂波岬ヲ中心トスル二十哩圈内ノ海面  
 三 島尻郡喜屋武岬ヲ中心トスル二十哩圈内ノ海面  
 但シ前項ノ海域以外ニ於テモ艦隊左泊スル場合其ノ泊地ヲ中心トスル二十哩圈内ヲ甲程度トス

第六條 知事ハ關係陸海軍司令官ト協議シ特ニ必要ト認めタル地域ヲ定メ附表第十二節ニ依リ準備管制ヲ強化スルモノトス

附表第十三節ニ掲グル官公署工場事業場等ニ對シテハ管制施設ノ完備ヲ指導然悉スルモノトス

第六條 沿岸水域(視テ視覚通信可能範圍トシ晝間距岸三浬夜間距岸五浬ヲ標準トス)ノ燈火管制ハ最モ速ニ到着セル警報ニ依リ実施ス

第六條 海軍担任区域外ノ港灣ニ於ケル燈火管制ハ陸軍司令官ノ警報ニ依ルコト

第七條 無線施設ナキ船舶澳舟管内海面ヲ航行スル場合防空警報ノ受理ニ関シ萬全ヲ期シ難キトキハ左ノ通り一段高度ノ管制ヲ行フモノトス

最後受理警報	実施スベキ管制
準備管制	警戒管制
警戒管制	空襲管制
空襲管制	空襲管制



24 第七一條

規模大ナル建築物工場作業場等ニ在リテハ電燈配

線ハ成ルベク統一管制ヲ爲シ得ル如ク施設スルモノトス

第七二條 左ノ場合ニハ警戒警報時ヨリ豫メ空襲管制ノ處置

ヲ講ズル様速ニ計画實施シ置クモノトス

一 速ニ空襲管制ヲ行フコト困難ナル場合

ニ空襲警報ノ受領困難又ハ著シク遅延スル場合

第七三條 燈火管制施設並ニ用具ノ保守ニ一層留意シ確實テ

ル管制實施ニ遺憾ナカラシムルモノトス

第七四條 燈火管制下ニ於ケル治安維持並ニ救済ナル防空活

動ニ支障ナキ様設置燈各種標識燈塗裝標識及照明具ヲ早

急ニ整備シ之が適切ナル配備ヲナスモノトス

第九章 偽裝

第七五條 偽裝ハ空襲目標、爆撃目標、誘導目標トナリ易キ工場

事業場倉庫官公衙、學校港灣施設、上水塔施設等ニシテ視距

離十軒以上ヨリ容易見容易ナルモノヲ対象トシテ物件ノ明

度形態色彩等ヲ周圍ニ類似セシムル如ク之ヲ行ハシムル

モノトス但シ特ニ必要ナル場合ハ視距離十軒未満ノモノ

ニ付テモ之ヲ行ハシムルモノトス防空監視哨ハ前項ニ依

リ速ニ偽裝スルモノトス

第七六條 偽裝ヲ要スベキ物件ヲ新設スル場合ハ當初ヨリ其

ノ敷地規模配置形態色彩等ニ関シ偽裝的考慮ヲ持ハシム

ルモノトス

第七七條 既ニ施行シタル偽裝ニ付テハ常ニ其ノ効果ヲ有効

ニ保持セシムル如ク努ムルモノトス

第十章 消防

第七八條 消防力ノ充實整備配置運用ニ付テハ特ニ空襲判断

ヲ基礎トシ重実主義ニ徹スルト共ニ努メテ迅速ニ措置ス

ルモノトス特ニ重要ナル生産施設貯藏施設港灣等ノ消防

防火ニ付テハ特別ナル考慮ヲ持フモノトス

第七九條 公私設消防ヲ一層強化シ夫々ノ其ノ消防力ヲ綜合

的有機的ニ遺憾ナク初期消防ニ集中指揮シ得ル如ク計画運用スルモノトス

第十條 消防隊集團運用ノ夕ノ指揮連絡用施設裝備ヲ補充整備スルモノトス

第十一條 防空重要地域防衛ノ爲必要アルトキハ消防自動車重要都市非常應援要綱ニ則リ非常應援セシムル外防空重要地域以外ノ地域現有スル各種消防唧筒ヲ努メテ多数防空重要地域ニ集中常置スルモノトス

第十二條 消防用水管吸水管ノ損耗度ヲ考慮シ之ヲ補充修理能力ノ向上ヲ圖ルモノトス

第十三條 平時ノ修理能力並ニ反復空襲ニ依ル被害ノ程度并ヲ考慮シ唧筒ノ修理機關ヲ速ニ整備強化スルモノトス

第十四條 消防用水ハ水道依存ノ方針ヲ是正シテ貯水槽ニ依ルヲ主トシ消防唧筒ノ増強及家屋ノ稠密度ニ應ジ代用資材并ノ活用ニ依リ増強整備スルモノトス

第十五條 河川濠地并ノ自然水利ニ有効ニ利用スベク創意工夫スルモノトス

第十六條 警察署長及市町村長ハ左ノ事項ヲ其檢指導シテ消防力ヲ強化シ防空上ノ萬全ヲ期スルモノトス

一 各々ニ付防火準備其檢シ特ニ貯水其ノ他防火資材ノ準備ヲ勵行セシムルコト

二 消防團ノ消防機材器具ヲ其檢シ故障アラバ速ニ修理シ置クコト

三 市町村内ノ給水設備ヲ其檢シ不充分ト認ムルトキハ努メテ應急的ニ貯水鑿井并ノ處置ヲ講スルコト

四 主要ナル工場事業場并ノ消防施設ヲ應急的ニ整備セシムルコト

### 第十一章 防毒

第十七條 永年防空計画第九章各條ノ事項ヲ徹底セシムル爲  
21. 警察署長ハ必要ニ應ジ防毒ノ指導防毒面ノ其檢ヲ行モトス

第十二章 防疫及給水

第六條 傳染病發生未だ防止ヲ圖ル爲豫防接種其ノ他傳染病豫防上必要ナル措置ヲ講ジ置クト共ニ防疫組織(防疫班等)ヲ確立シ機動的活動ヲ爲サシメ且衛生組合又ハ傳染病豫防法ニ基テ豫防委員等下部組織ヲ活用スル様計画準備スルモノトス

第七條 傳染病院ノ防衛及移轉計画ヲ樹立準備シ置クト共ニ傳染病多發ニ備ヘ必要ナル傳染病患者收容施設ヲ計画準備スルモノトス

第八條 水道ノ水質ヲ保全スル爲塩素菌室ノ防護ノ完壁ヲ期スルト共ニ成ルベク豫備殺菌機又ハ漂白粉消毒法ニ要スル設備及薬剤ヲ用意スルモノトス

第九條 水道ノ破壊細菌毒物ニ依リ水質ノ汚染等ニ因リ水ノ供給不可能ナル場合ヲ考慮シテ補給水源井戸河川池沼貯水槽等ノ配置水質及水量ヲ調査シテ之ガ淨化配水等

ニ関シ計画準備スルモノトス

第十三章 救護

第十條 警防團特設防護團隣保班等ニ於ケル救出搬送機關ヲ増強スルト共ニ移動救護機周ヲ整備スル等災害現場ノ救護ニ付計画準備スルモノトス

第十一條 防空法施行令第三條第二項ノ規定ニ依リ救護所トシテ供用セシムルコトヲ豫定スルモノ、ハ附表第十四號ノ如シ同第四條ノ規定ニ依リ防毒及救護ニ從事セシムルコトヲ豫定スル特殊技能者數ハ附表第十五號ノ如シ

第十二條 永年防空計画第一百二十三條ノ規定ニ依リ知事ノ指定スル病院ノ編成スル特設救護班ノ組織ハ附表第十六號ノ如シ

第十三條 救護所救護病院等ニハ空襲時電氣上水ノ送配杜絶スル場合ニ備ヘ手術照明装置消毒方法給水等ニ関スル必要ナル豫備設備ヲ爲サシメ又ハ非常方策ヲ講ジ置カシムルモノトス

30. 第六條

救護ニ必要ナル醫藥品其ノ他ノ衛生用物資ハ必要ナル品目數量ヲ確保シ且之ガ分散貯藏スルト共ニ之等資材ノ迅速円滑ナル非常配給ヲ爲シ得ル様計畫シ置クモノトス

第七條

死傷者運搬用トシテ救急自動車ノ整備ヲ圖リ且貨物自動車等ノ使用計畫ヲ走メ置クモノトス

第八條

塵埃及斯被毒者ニ對スル除毒所ニハ共同浴場ヲ以テ之ニ充テ成ル可ク多クノ水裝置ヲ設ケシムルコト

第九條

罹災者ニ對スル收容施設及食品被服等ニ関シ計畫シ置クモノトス

第四章 待避

第一百條

敵航空機視界又ハ聽音界ニ在ル間又ハ軍防空機関ノ戰鬥時ニ在リテハ特別ノ要務アル者ヲ除ク外總テ待避セシムルモノトス

第一百一條

防空要員其ノ他防空能力アル者ハ直ニ防空活動ヲ爲スニ便ナル位置ニ於テ待避スルモノトス

第一百二條

老幼者傷病者妊産婦婦不具齊疾者及之等ノ者ノ保護ニ必要ナル者ハ空襲警報發令ヨリ解除ニ至ル迄之ヲ先

全ナル防空壕又ハ掩蓋式待避所ニ避難セシムルモノトス

第一百三條

家庭待避施設ノ整備ヲ一層徹底セシムルト共ニ密集地区停車場附近等ノ公共待避施設ヲ増強整備スルモノトス

第十五章 避難

第十四條

防空法第五條及同施行令第三條ノ規定ニ依リ避難所トシテ供用ヲ命ズベキモノハ附表第十七號ノ如シ

第十五條

那覇首里両市長ハ警察署長ト協力シ各町班毎ニ附表第十八號ニ依リ避難場所及避難者ノ保護担当者ヲ豫メ計畫シ置クモノトス

第十六條

那覇首里両市長ハ警察署長ト協力シ其ノ計畫ニ依ル避難所及諸資材ノ準備状況ヲ査檢シ避難者ノ收容ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

第十七條

知事及市町村長ハ緊急避難ニ必要ナル施設ノ收容

32.

力應急食糧衣料等ノ配給等ニ因シ調査計畫シ置クモノトス  
 第百八條 緊急避難ハ空襲ニ因ル被害發生ノタメ必要已ムヲ  
 得ザル場合此等罹災者ヲ警察署長ノ指揮統制ニ依リ一時  
 附近ノ學校寺院公園空地等ニ誘導シテ之ヲ行フモノトス  
 第百九條 罹災者多数ノ場合ニ備ヘテ平素ヨリ緣故先アル者  
 ラシテ緣故先ト必要ナル連絡ヲ因ラシムルト共ニ緣故先  
 無キ者ニ都市ト郡部トノ間ニ協力防衛ノ精神ニ基ク連絡  
 ヲ構成シ緊急ニ際シ避難收容シ得ル如ク計畫準備スルモ  
 ノトス

### 第十六章 退去

第百十條 防空力ノ低下ヲ防止スル爲退去ハ一般ニ之ヲ行ハ  
 シメザルモ情況已ムヲ得ザル場合ニ於テハ特ニ防空ノ實  
 施ニ從事セシムルノ要アルモノ以外ノ者ニ對シ危險區域  
 外ニ退去セシムルモノトス

第百十一條 退去ヲ分テテ地方長官又ハ市町村長ニ於テ退去先

ヲ指定スルモノ(指定退去)ト退去先ヲ自己ノ緣故先ニ求ム  
 ルモノ(緣故退去)ノ二トス 退去ノ時期及方法ハ陸海軍ノ  
 空襲判断ニ基キ之ヲ定ムルモノトス

### 第十七章 非常用衣食住物資ノ配給

第百十二條 非常用衣食住物資ノ配給ハ空襲ニ際シ國民生活ノ  
 根底タル衣食住ヲ確保シ人心ノ動搖及各種業務活動ノ進  
 滞ヲ防止スルヲ主眼トス之が爲食糧燃料被服住宅材料等  
 衣食物資ノ全般ニ亘リ最高度ノ活用ト合理的節約トヲ綜  
 合的ニ計畫實施スルモノトス

第百十三條 防空用非常食糧衣料等ハ危險地区外ハ分散貯蔵ス  
 ルト共ニ之が迅速円滑ナル非常配給ヲ爲シ得ル様計畫シ  
 置クモノトス

33  
 第百十四條 配給ハ空襲時ニ於テモ能ク限リ平常ノ機構方法配  
 給基準ニ依リ之ヲ持續スルヲ原則トス但シ罹災者避難者  
 防空從事者緊急業務從事者ニ對スル集團的特別配給ヲ爲

シ又ハ一般配給ニ付臨機應急ノ措置ヲ要スル場合ハ概ラ失セズ之ヲ実施シ人心ニ無用ノ惑乱ヲ生セシメサルモノトス  
**第五條** 配給機構ハ平常時並ニ空襲時ヲ通ジ簡素強カナラシムルト共ニ関係機関ノ構成業務内容責任分野相互關係ヲ具體的詳細ニ明確テラシメ且必要ナル訓練ヲ実施シテ其ノ綜合的一体活動ヲ図ルモノトス

第十八章 應 急 復 旧

**第六條** 應急土木工作團ハ道路河川水道其他公共土木施設ノ應急復旧ヲ実施スルモノトス

**第七條** 警防團ハ必要ニ應ジ應急復旧工作班ヲ設ケ應急復旧ニ應援協力シ又ハ輕易ナル應急復旧ヲ実施スルモノトス

**第八條** 應急復旧ハ被害ノ地正被害ノ程度被害物件ノ重要度並ニ勞力及資材等ヲ勘案シ復急順位ヲ決定シ迅速且重要のニ実施スルモノトス

**第九條** 電力水道運輸通信等ノ重要集合部ノ綜合復旧ヲ計

画準備シ其ノ概要部ニ對スル二百五十級以上ノ爆弾ニ

因ル破壊特ニ又復空襲ニ因ル破壊ノ復旧ヲ準備スルモノトス  
**第十條** 應急復旧ニ必要ナル器具資材ハ適當ナル場所ニ分散整備シ綜合的且重要利用法ヲ講ジ置クモノトス

**第十一條** 應急復旧工事ハ統一アル指揮ノ下ニ迅速ニ之ヲ實施シ得ル如ク關係諸機関ニ於テ豫メ連絡協定ヲ爲スト共

ニ通報連絡指揮命令ノ徹底ヲ期スル方途ヲ講ジ置クモノトス  
**第十二條** 永年防空計畫第五十條ノ規定ニ基キ工作班ヲ編

成セシムベキ事業者ハ附表第十九號ノ如シ  
**第十九章 防 毒**

**第一條** 重要ナル諸機關諸施設ノ要部ハ之ヲ耐彈構造トシ

又ハ之ニ耐彈設備ヲ爲サシメ特ニ其ノ概要ナル部分ハ大型爆彈ノ直撃ニ耐フル如ク構造又ハ設備セシムルモノトス

**第二條** 構築物ノ狀況ニ依リ耐彈構造又ハ耐彈設備ヲ爲シ  
**第三條** 構築物ノ狀況ニ依リ耐彈構造又ハ耐彈設備ヲ爲シ  
**第四條** 進キモノハ彈片又ハ爆風ニ耐フル如ク構造又ハ設備セシ

ムルモトス

第二章條 重要地域ニ於ケル防空要員ニ對シテハ可及的ニ救  
曳ヲ整備スルモトス

第二十章 清掃

第三章條 市町村長ハ警察署長ト協力シ交通幹線ノ確保特ニ  
防空活動ニ必要ナル道路ノ開放及啓蒙ニ関シ計畫準備シ  
置クモトス

第四章條 市町村長ハ警察署長ト協力シ被害現場ノ復片付特  
ニ交通路ノ啓蒙屍体ノ處理被害物件ノ處理及管理其ノ他  
一般ノ汚物處理等ニ関シ計畫準備スルモトス汚物專特  
ニ屎尿ノ處理ニ関シテハ被害地並ニ避難地区ノ共同便所  
ノ假設及市街地ニ於ケル之ハ円滑處理等ニ関シ計畫準備  
スルモトス

第二十一章 港湾防空

第五章條 本年度ニ於テハ戰時海上輸送力確保人爲特ニ那霸

港ニ於ケル防空態勢ノ強化充實ヲ図ルモトス

第六章條 那霸港務所長ハ陸海軍ノ關係官警察署長稅關海務  
局及那霸市長ト協議シ港湾防空本部又ハ之ニ準ズル組織  
ヲ設ケ港湾防空ノ綜合統制ヲ図ルモトス

第七章條 那霸港ノ港湾防空各機關ハ連ニ港湾防空態勢ノ強  
化確立ト之ガ綜合的機能ノ發揮ヲ図ルト其ニ特ニ防空上  
緊急處置ヲ要スベキ重要事項ニ付之ガ強化ナル実施ヲ圖  
ルモトス

第八章條 那霸港灣ノ防空ハ水路及岸壁設置確保ノ爲特ニ船  
舶ノ急速分散ニ必要ナル曳船等ヲ準備スルト共ニ沿岸施  
設特ニ倉庫地帯等ノ消防防火ノ爲貯藏物資特ニ危險物ノ  
分散及油槽ヨリノ流出火災ヲ防止スル如ク整備ス又荷役  
能率ノ低下防止ノ爲燈火管制施設ノ急速整備ヲ図ルモトス  
第九章條 那霸港ノ港湾防空機關ハ資材配給ヲ俊タズ現有資  
材ヲ極力活用シ凡ソ工天ニ依リ速ニ港湾施設及之

38. 防同刃部ノ防護施設ヲ強化スルモノトス

第三十二章 工場防空

第百三條 防空警報下空襲時又ハ災害發生時ニ於ケル適切ナル作業措置ヲ計畫準備シ關係従業員ノ全員ニ徹底セシメ置クモノトス

第百四條 重要ナル工場事業場等ニ於テハ防護醫務施設ヲ整備シ要スレバ外部醫務機関ト豫メ充分ナル連絡ヲトリ対策ヲ確立シ置クモノトス

第百五條 永年防空計畫第十條第六號ノ規定ニ依リ防空計畫ヲ設定スベキ重要工場鉱山事業場ハ附表第二十號ノ如シ

第二十三章 家庭防空

第百六條 家庭防空ハ隣保共助ノ精神ト果敢ナル志氣ニ基キ自衛防空ノ完璧ヲ期スルヲ以テ主旨トス

第百七條 家庭及隣保班ニ在リテハ時局防空必携ニ準據シ自衛防空ニ必要ナル設備資材ヲ整備シ常ニ実践ニ即スル態

勢ヲ整ヒ置クト共ニ防空法施行令第七條ノ二第一項各號ニ定ムル者ヲ除クノ外左ノ全頁之ニ當ルモノトス

第百八條 第八條ニ定ムル甲乙地域ニ在リテハ其ノ区域内ノ防空実施並訓練ニ於ケル連絡ノ緊急ヲ因リ家庭防空班ノ防空活動ノ有機的調整ヲ図ルモノトス

第百九條 隣接ノ隣保班ニ災害發生シ未ダ他ノ防空機関ノ未着ナキ場合ニ於テハ自班ノ防空措置ニ支障ナキ限り之ニ應援スルモノトス

第百十條 家庭防空班ハ諸般ノ防空業務ニ関シ其ノ能力ノ限度ニ應ジ他ノ防空機関ニ協力スルモノトス防火活動中消防機関ノ未着シタルトキハ其ノ作業ヲ之ニ委ネ其ノ指示ニ從フモノトス

第百十一條 隣組(概テ十戸)ニ對シ一空襲波毎ニ大型焼夷彈一發小型焼夷彈五發宛ノ攻撃ヲ反復受ケタル場合ニ必勝ヲ期シ得ル態勢ヲ確立スルモノトス



### 第二十四章 交通統制

#### 第一節 應急運輸

**第壹條** 避難救護防疫非常用物資ノ配給應急復旧清掃及給水ニ要スル鉄道自動車船舶其ノ他ノ運輸施設ヲ集中利用シ各業務ノ必要ニ應ジ綜合的ニ配分充當シ得ル如ク計畫準備スルモノトス

**第貳條** 應急運輸ニ必要ナル業務特ニ運輸者助手及荷役人夫等ヲ輸送計畫ニ對應スル如ク之ガ確保ヲ図ルモノトス

**第參條** 應急運輸用非常燃料油脂ヲ確保シ置クモノトス

**第肆條** 自動車交通事業ニアリテハ非常用修理部品資材ヲ確保スルト共ニ修理工場ニ於ケル計畫的修理ヲ策定シ置クモノトス

#### 第二節 交通施設防空

**第壹條** 防空警報令アリタル場合鉄道軌道及乗合自動車ノ運行ハ別紙第一號防空警報令時ニ於ケル地方鉄道軌

道及乗合自動車ノ運行ニ関スル取扱要綱ニ依ルモノトス  
**第貳條** 警戒警報令ヨリ同解除ノ令アル迄夜間ニ於ケル交通ハ左ノ制限ニ依ルモノトス  
 一 自動車 時速十軒以内  
 二 其ノ他諸車制限ナシ

#### 第二十五章 供給施設防空

**第壹條** 電氣用水等ノ供給施設ノ防空的整備ヲ強化シ特ニ重要機關及重要生産施設等ニ對スル供給ノ確保ヲ期スルヲ以テ主旨トス

**第貳條** 供給施設ノ防空ハ被害時ニ於ケル供給ノ轉換應急復旧ノ準備ニ重矣ヲ置キ計畫準備スルモノトス

**第參條** 電氣用水等ノ供給施設ノ要部ハ防護設備ヲ為サシムルモノトス

**第肆條** 弁井汚濁池配水池等ニハ適當ナル偽裝ヲ為サシムルモノトス

